

シャイン

— 受講のきっかけと今 —

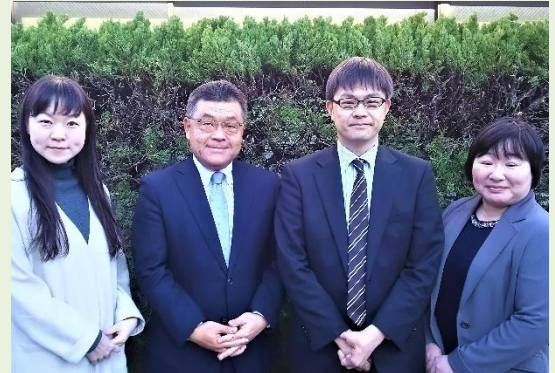
シャイン 028号

20年後に活かされた 産業カウンセラーの資格

中澤 尊史さん

会社名：株式会社舞浜コーポレーション 役職：代表取締役社長

資格：産業カウンセラー



社内傾聴講座の推進メンバーとともに（左から2番目が筆者）

【受講のきっかけ】

今から20年以上も前の平成9年。当時、日々多忙な人事業務に携わっていた私は、自身の心身の問題も相まって、表向きは仕事に活かすという名目でしたが、半ば救いを求めるような思いを抱きながら養成講座（その当時は「初級産業カウンセラー養成講座」）を受講し、資格を取得しました。

その後もさらにステップアップ（当時は「中級産業カウンセラー」）を目指して向上訓練を精力的に受講しておりましたが、いつしか仕事の忙しさに負けて諦めてしまいました。そのときは、まさか20年後の今になって、この資格が活かされることになるとは、まったく想像することなどできませんでした。

【資格取得後の活動状況】

資格を取得してから今日に至るまで、途中で資格を失効（!?）させてしまったことが物語るように、産業カウンセリングにかかわるような仕事をしていただけではなく、いわゆる自己啓発の範疇でいくつかの心理療法の学びの場に参加しては、自身の知見を広める程度の活動だけは続けていました。

ところが4年前、当社に親会社からの出向という形で着任し、20年前の経験が活かされる機会に突然巡り合うことになったのです。

当社は、親会社である株式会社オリエンタルランドの特例子会社として、大勢の障がいのある従業員とともに、主にテーマパーク事業を裏から支える業務を担っている会社ですが、着任当初より、知的あるいは精神に障がいのある従業員を支援していく役割の従業員（スーパーバイザー）が、個々の特性に合わせたきめ細かい面談や日ごろのコミュニケーションの技量向上のための効果的な打ち手が十分ではないことに課題を感じておりました。

いろいろと思索しましたが、私はやはり20年以上前に学んだ「正しい傾聴スキルの習得」こそが、そのための一番の近道であるという思いに至り、幸いなことに当社に在籍していた2名の産業カウンセラー有資格者と一緒に、どうしたら彼らの傾聴スキルを適切に高められるか、検討を開始しました。

そして2年前、有資格者の一人が東関東支部主催の養成講座を受講した際にお世話になった恩師であり、その後、当社の傾聴講座に全面的にご支援、ご指導いただくことになる素晴らしい方（シニア産業カウンセラー）と出会い、おそらく一般企業ではなかなか考えられない充実した中身の社内傾聴講座をスタートさせることができました。

私も含めたマネジメント職、スーパーバイザー職全員を対象として毎回10名程度のグループごとに半日×3回のプログラムを今現在も繰り返し進めていますが、昨年は、既受講者の中から特に傾聴力向上に前向きメンバーを募って、よりハイレベルのアドバンスコースを開講することができたり、また、この社内講座がきっかけとなって、自ら協会の養成講座を受講する従業員も現れたり、全体としての傾聴力は、ここ2年で確実に良い方向に底上げがなされていることを実感しています（もちろん私も、失効してしまった資格を復活させたとは言うまでもありません）。

長い長い仕事人生、産業カウンセラーの資格を取得するために勉強してきたことが、いつどんなときにどんな形で役立つかわかりません。そんな事例の1つとしてご参考になれば幸いです。

株式会社舞浜コーポレーションホームページ

<http://www.mcc.olc.co.jp>